

〔読者の声〕

誰のための SPF 豚か

All about SWINE 50, 30

昨年（2016年）11月30日に開催されたSPF豚協会セミナーの冒頭の挨拶で北島会長は、『SPF豚の特定病原体からトキソプラズマを除くことにしました』とコメントされた。トキソプラズマは特定病原体のなかで唯一の人獣共通感染症の病原体であり、消費者に対してSPF豚の安全・安心をアピールできる重要なセールスポイントと私は考えてきたのだが・・・。

さて、セミナーは、デンマークから招聘されたベント・ニールセン氏による「デンマークのSPFシステムと衛生対策」とイエス・クラウセン氏による「デンマークの多産系母豚の栄養・飼養管理」の2題であった。ベント・ニールセン氏は、デンマークの養豚全般について概説したあとSPFシステムについて話したが、その中で驚いたことがあった。衛生条件の厳しいレッドステータス農場（核農場、増殖農場）で毎月検査しなければならない疾病として、マイコプラズマ肺炎、2,6型による胸膜肺炎、PRRSの他、驚いたことにサルモネラが挙げられていたのである。対象疾病の少なさにもかかわらずサルモネラがそのうちの一つだったのである。ただデンマークのSPFシステ

ムは、わが国と異なりSPFという「縛り」は緩やかである。すなわち、モニタリングで陽性であったからといって直ちにSPFの看板を下ろさなくてはならないというシステムではなく、「SPF農場だがマイコは陽性」というように自農場の衛生ステータスを示せばよいことになっている。また、サルモネラはフリーかどうかでなく、抗体陽性率により3つのレベルにクラス分けされ、各レベルに応じた対処方法が定められている。このようにわが国のSPF豚の排除対象疾病に対する考え方、対処方針とは大きく異なることは事実である。しかしながら、サルモネラが数少ないモニタリング疾病の一つになっていることは、消費者メリットという観点から見た場合きわめて重要な意味があると考えられる。

以前「SPF豚の消費者メリットは何ですか？生産者にメリットがあるだけではないですか」という質問をされたことがあるが、トキソプラズマがはずされてしまった現在、何て答えればいいのか。

（隠居老人・山本孝史）